

平成 25 年度 第 14 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 25 年 7 月 26 日（金） 午後 7 時～8 時 30 分

開催場所 笠間市役所

参加者 市民 20 名

《フリートーク（意見交換）》

- 1 医療福祉費支給制度（マル福）について
- 2 宍戸駅の発車ベルについて
- 3 踏切付近の除草について
- 4 駅周辺整備活性化プランについて
- 5 B & G 岩間海洋センターの改修について
- 6 市内運動場の整備について
- 7 日本たばこ社員寮跡地付近の道路について
- 8 拠点避難所の設備について
- 9 空き家バンク制度について
- 10 総合防災訓練について
- 11 災害時の食糧備蓄について
- 12 災害時における職員の対応について
- 13 街灯・防犯灯の設置について
- 14 「ミニ統計かさま」について

《内容》

1 医療福祉費支給制度（マル福）について

【意見等】

中学 3 年生までの子どもの医療費について、自己負担分を市が補助してくれる制度（マル福）があるが、笠間市ではこの制度に所得制限を設けている。子どもは親の所得によって差別されるべきではないと思う。せめて、幼稚園奨励金のように、段階的に助成する制度にできないか。

【回答】

笠間市は医療費、マル福を含むすべての支給制度で所得制限を設けています。医療費の助成も全額ではなく、初診料は月 2 回まで負担していただいております。

自治体の中でも所得制限を行っているところと行っていないところがあり、最近では所得制限がない自治体が多いようです。中学生の医療費の助成についても、所得制限を設けている自治体は水戸と笠間を含めた 3、4 か所程度だと思います。所得制限の撤廃については、市議会でも議論がありますが、財政的な理由はもちろん、所得制限により、多くの支援メニューを設けることができるメリットもあります。所得制限上限額を少し超える方々には、不公平感を感じてしまうことがあると思いますが、笠間市の子育て支援制度は、県内では東海村の次に充実しています。行政は弱者救済が基本となりますので、所得のある方にはご理解いただきたいと考えています。

また、これらの助成制度は市町村によってそれぞれ内容が異なる部分があり、本来は国が統一して制度を作るべきだと思いますが、提案のあった「段階的所得制限（階級）制度」の導入については、検討させていただきます。

2 宍戸駅の発車ベルについて

【意見等】

宍戸駅と笠間駅の発車ベルを、坂本 九さんのメロディーにしてほしい。

【回答】

現在、岩間駅と友部駅で坂本 九さんの歌のメロディーが流れていますが、これは駅の改修に伴い、設定したものです。発車メロディーを流すことについては、JRとの協議、機材の設置、歌の利用権（著作権）等の調整が整えば、変更することは可能であると思います。今後は、既にメロディーを流している友部駅・岩間駅を除いた、残り4つの駅について検討していきます。

3 踏切付近の除草について

【意見等】

JR水戸線の「坂場踏切」は草が繁茂しており、柵も見えない状態である。このため、最近では中学生も踏切を通らなくなっている。JRでは部分的にしか除草を行わないので、せめて柵が見えるくらいまで除草してもらいたい。

【回答】

管轄が市なのかJRなのかを確認し、除草を行うよう対応します。

4 駅周辺整備活性化プランについて

【意見等】

駅の活性化プランに、笠間駅の一部を加えてもらいたい。笠間駅は売店もなく、観光の拠点としてさびしい状況であるので物産所や憩いの場所などの整備に取り組んでももらいたい。

また、笠間駅に電車で来て良かったと言われるような駅にしてほしい。

【回答】

駅の近くにサービスの機能が集中することは必要だと考えています。

この度、市が進めている駅周辺整備活性化プランは、駅の近くに公共の未利用地がある駅を対象として、行政機能の再編・新設を含めた地域の核づくりをしようということで進めています。笠間地区については、井筒屋の再生や笠間稲荷門前通りの再整備を最優先としました。決して笠間駅をないがしろにしているわけではありませんが、現段階では笠間駅と笠間稲荷門前通りの両方を同時に着手することは難しいので、笠間駅については次の段階での整備を検討していきたいと考えています。

5 B & G岩間海洋センターの改修について

【意見等】

B & G岩間海洋センターのプール改修について計画されているが、トイレも老朽化しているので、一緒に改修してほしい。

【回答】

B & G岩間海洋センターについては、特に水回りが痛んでいますので、今回トイレを含めた改修も行います。具体的な改修については、水着で利用する方が多いため、洋式への改修を考えています。

6 市内運動場の整備について

【意見等】

柿橋グラウンドでは、グラウンドゴルフ大会など高齢者の利用が多いので、雷雨時等に避難できる避難所を作ってほしい。また、みどりの広場（畜産試験場跡地）にできるグラウンドにも、同様に避難所を設置してほしい。

【回答】

柿橋グラウンドの避難所（あずまや）は確かに必要だと思いますので、設置を検討します。

畜産試験場跡地については、周辺一帯の排水整備の中で、大規模な調整地を整備する予定があ

ります。調整地の敷地内には多目的グラウンドの設置についても県と協議していますので、今後検討していきます。

7 日本たばこ社員寮跡地付近の道路について

【意見等】

地震で壊れた道路の舗装は完了したが、道路の側溝がずれて低くなり、蓋が開かないため、側溝の清掃を地区で行いたくてもできない状態である。市に相談したら「舗装するときには言ってくればよかったのに」と言われた。また、この地区の排水は、側溝整備だけでは解決できない。からしまボウル跡地の一部を市で購入して、新たな排水管を整備できないか。

【回答】

道路側溝のズレについては、現地を再度確認し、改修の可否について検討します。

また、この地区の排水整備については、側溝のずれとは原因が異なります。この件は以前から意見が出されていますので、今一度原点に戻り、市役所内部でよく検討して、整備の方向性を出していきたいと考えています。

8 拠点避難所の設備について

【意見等】

拠点避難所となっている友部中のトイレを改修および増設をしてほしい。東日本大震災の時には、トイレの数が不足していたし、車椅子対応のトイレも現在は無いので必要である。

また、井戸が整備されたが、飲み水として使えるのか。

【回答】

トイレの整備については、災害時に必要な数を想定して、整備することは難しいと考えています。そのため災害時には、簡易トイレ業者と提携して、迅速に拠点避難所にイベント等で利用されているテント型などの簡易トイレを配置できるようにします。車椅子対応のトイレについては、各校にひとつの整備を考えていきたいとは思っていますが、スペースの問題や、大規模な改修が必要となるなどの課題があり、なかなか対応できていないのが現状です。

次に井戸水については、飲料水はペットボトルで確保したり、汚れた水は飲料水以外として利用したり、使い分けをする方向で考えています。また、簡易浄水器を配備していますので、プールの水の使用も可能です。飲料水の安全性については、定期的に検査を行っています。

9 空き家バンク制度について

【意見等】

個人で事業を行っており、貸事務所を探している。大きなスペースは必要ないので、一戸を区切ってシェアハウスのように使用することはできないか。

【回答】

貸主の意見を尊重する必要がありますが、無理なことではないと思います。現在、空き家バンク制度が想定しているのは住宅としての利用ですが、登録されている物件には空き店舗もあると思います。具体的な予算や、借りたい家屋の地域などが決まっている場合は、貸事務所として利用できる物件があるかどうか、まちづくり推進課に問い合わせただければと思います。

10 総合防災訓練について

【意見等】

11月9日（土）に行われる総合防災訓練では、市が策定した防災計画に基づいた拠点避難所における訓練を実施してほしい。また、地域の自主防災組織の参加も考慮してほしい。

【回答】

今回の訓練は県が中心となって実施するもので、詳細はこれから決定していきます。津波災害訓練をひたちなか市で、内陸部災害訓練を笠間市で行い、いずれも大規模な訓練となる予定ですので、自主防災組織の参加を含めて市役所内部でよく協議します。

11 災害時の食糧備蓄について

【意見等】

東日本大震災の時に、石巻市の日赤病院では、患者分の食糧備蓄はされていたが、職員分の食糧は備蓄されていなかったという。笠間市では市職員の分を含めて備蓄してほしい。

【回答】

市では3日間分を想定した食糧を備蓄していますが、市民分職員分といった仕分けはしていません。ただ、市が用意できるのは「食料がない」という人への物資ですので、市民全員分をまかなえるということではありません。日頃から、できる限り各家庭で保存食などを用意し、震災に備えていただきたいと思います。

12 災害時における職員の対応について

【意見等】

東日本大震災の時、市職員は即席のご飯を炊くことができなかったので、普段から炊き出し訓練等を行ってほしい。また、市役所の指揮命令もバラバラだった。防災訓練を含め、市の指導状況はどのようになっているのか。

【回答】

今回の東日本大震災では、市役所の対応が後手に回ったことは事実です。想定しなかった地震とはいえ、反省点は多いです。しかし、炊き出し訓練も含め、そうしたことが必要だと、東日本大震災前に思っていた人は少ないと思います。今回の震災を教訓として、今後の災害対応について深く考えることが、市役所に課せられた使命だと考えています。指揮命令系統についても見直しを行いました。例えば、拠点避難所の開設をどの部署が担うのかを事前に決めておくなどの役割分担の取り決めをしました。

ただ、職員の炊き出し訓練は行っていません。炊き出しについては、市役所だけで行うのか、他の組織と合同で行うのかなどを検討していきます。市役所は災害時に、必要なものを手配する役目を担うことが中心となりますので、どうしてもできることには限界があります。炊き出しなどの現場対応は、市民の皆さん協力が必要となりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

今年、自主防災組織の連絡協議会を立ち上げることにしましたので、その中で情報交換をしながらさまざまな事例を出し合って、良い方向へと進めていきたいと考えています。

13 街灯・防犯灯の設置について

【意見等】

友部駅北口の道路に街灯がついていない。自転車利用もあり必要と思われるが、ついていない理由でもあるのか。また、からしまボウル跡地の西側の道路は、中学生の通学路になっているのに、防犯灯がついていないので設置を検討してほしい。

【回答】

地元からの要望がなかったためと思われます。地元の区長と、防犯灯の可否について相談します。からしまボウル跡地の西側の防犯灯についても、中学校と相談するなど、必要性をよく判断して設置を検討したいと重います。

なお、防犯灯の必要箇所について、市がすべてを把握することはできないので、学校や市役所へ情報提供をお願いしたいと思います。すぐに設置できるかどうかは別として、情報提供のあった箇所は調査をしたうえで、設置について検討します。

14 「ミニ統計かさま」について

【意見等】

県の順位が低いものについて、その原因などの分析調査は行っているのか。分析すれば原因が分かり、対策も立てられると思われる。例えば、所得を上げるための対策を講じ、効果があれば税収も上がるのではないか。このような情報は定期的に出してほしい。

【回答】

現在、市では具体的な分析調査や対策などは講じていません。今後、統計数値の出し方を含めて分析します。